
寝耳にメール

朝霧幸太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

寝耳にメール

【Nコード】

N9276P

【作者名】

朝霧幸太

【あらすじ】

シヨートストーリーですので、あらすじは記しません。

目が覚めて、時刻を確かめると深夜の0時だった。

マナーモードにしてあった携帯の振動音で起こされたらしいと気づく。

メールが届いたのだ。

《from:真梨子

遅くにごめんなさい。なんだか寝つかれなくて。

私、やっぱり彼と別れることにしました。でも、だからってあなたと縋りを戻したいとかってことじゃないの。誤解しないで。

ただ、あなたが「行き詰まったら、いつでも話を聞いてやる」って言うてくれたのを思い出したの。

これから、あなたの所へ行っていていいかしら?》

僕は、ベランダに出て煙草をくわえながら携帯を操作した。

《to:真梨子

月がとつてもきれいだよ。君がどうしようも自由だけど、メールは宛先をちゃんと確認してから送信すること。

僕と別れることに決めたんだって?

寝耳にメールとはこの事だ。何故、そう決めたのかをこっちが聞きたいぐらいだけど、今更それは野暮というものだろう。

今日はデートの約束を忘れた訳じゃなくて、記憶違いだったただだ

からね。

いずれにしても、これぐらいのことでいちいちへそを曲げるようなら、持たないと僕も思うよ。

元彼の近くまで車で送ってやろうか?》

僕は、二本目の煙草に火をつけながらメールの送信ボタンを押した。

――

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9276p/>

寝耳にメール

2011年1月8日23時43分発行